

平成22年度中間決算について

本州四国連絡高速道路株式会社の平成22年度（第6期）
中間決算についてお知らせします。

平成22年度中間決算について

個 別 決 算

- ・貸 借 対 照 表
- ・損 益 計 算 書
- ・株主資本等変動計算書
- ・個 別 注 記 表

連 結 決 算

- ・連 結 貸 借 対 照 表
- ・連 結 損 益 計 算 書
- ・連結株主資本等変動計算書
- ・連 結 注 記 表

※弊社の中間決算は、金融商品取引法に基づいて作成したものではなく、
情報開示等の目的で任意に作成したものです。

平成22年12月22日

本州四国連絡高速道路株式会社

平成22年度中間決算について

(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)

	個別決算	連結決算
営業収益	303億円[289億円] 高速道路事業300億円 関連事業 2億円 (うち休憩所等事業1億円)	311億円[297億円] 高速道路事業300億円 関連事業 10億円 (うち休憩所等事業8億円)
営業費用	283億円[268億円] 高速道路事業280億円 関連事業 2億円 (うち休憩所等事業1億円)	289億円[274億円] 高速道路事業282億円 関連事業 7億円 (うち休憩所等事業5億円)
営業利益	19億円[20億円] 高速道路事業19億円 関連事業 0.02億円 (うち休憩所等事業0.3億円)	21億円[22億円] 高速道路事業18億円 関連事業 3億円 (うち休憩所等事業3億円)
経常利益	20億円[21億円]	22億円[24億円]
中間純利益	8億円[10億円]	9億円[11億円]

注)[]書きは、昨年度の数字

個別決算の概要

高速道路事業と関連事業を合わせた全事業において、営業収益303億円に対し、営業費用283億円となり、営業利益は前年同期を0.6億円下回る19億円となりました。これに営業外収益と営業外費用を加減した経常利益は20億円となり、特別損失2億円と法人税などを差し引いた中間純利益は前年同期を1億円下回る8億円となりました。

なお、平成22年度の通期では、当期純利益は0.3億円と見込んでいます。これは、工事等の完成が下半期となるものが多く、工事等の完成時に費用を計上すること等のため、中間期よりも利益が減少すると見込まれるためです。

損益計算書

(単位：億円)					
区 分	平成22年度 中 間 期	平成21年度 中 間 期	増(△)減	前 年 同期比 (%)	(参考) 通期見込 ※
営 業 収 益	303	289	13	4.7	625
高速道路事業	300	285	14	5.1	609
料金収入	286	273	13	4.8	555
道路資産完成高	13	11	1	13.1	53
その他の売上高	0.5	0.6	△ 0.1	△ 16.5	1
関 連 事 業	2	3	△ 0.9	△ 25.8	16
うち休憩所等事業	1	1	0.02	1.4	4
営 業 費 用	283	268	14	5.3	620
高速道路事業	280	265	15	5.8	605
道路資産賃借料	186	173	12	7.0	364
道路資産完成原価	13	11	1	13.1	53
管理費用	81	79	1	2.1	188
関 連 事 業	2	3	△ 1	△ 29.4	15
うち休憩所等事業	1	1	△ 0.1	△ 5.8	3
営 業 利 益	19	20	△ 0.6	△ 3.1	5
高速道路事業	19	20	△ 0.8	△ 4.0	4
関 連 事 業	0.02	△ 0.1	0.1	112.9	1
うち休憩所等事業	0.3	0.1	0.1	64.4	1
経 常 利 益	20	21	△ 0.8	△ 4.0	6
特 別 損 失	2	—	2	皆増	2
中 間 (当期) 純 利 益	8	10	△ 1	△ 17.2	0.3

※ 通期見込は、当社が現時点において入手可能な情報に基づき作成したものです。したがって、実際の業績は、様々な要因によって異なる場合があります。

高速道路事業

- 当中間期の本四道路の通行台数は19百万台と対前年同期比で1.8%増、料金収入は286億円と対前年同期比で4.8%増となりました。
- 利便増進計画による割引として、大幅な料金割引を継続しています。
- 企画割引について、「与島PA Uターン割引」、「しまなみサイクリングクーポン」、「淡路花博2010 ETC平日昼間割引」等を実施しました。
- ETC利用率は平成22年9月で90.2%となり、平成22年3月と比較し1.2ポイントの増加となりました。
- 主な工事として、橋梁耐震補強工事、長大橋塗替塗装工事、舗装補修工事及び交通管制設備更新工事を実施しました。
- 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下、「機構」という。）に対する道路資産賃借料は186億円となりました。
- 以上の結果、料金収入及び機構へ引き渡した資産の売上である道路資産完成高などの営業収益300億円に対し、道路資産賃借料、道路資産完成原価及び道路の管理費用の営業費用が280億円となり、営業利益は19億円となりました。

関連事業

- 休憩所等事業については、お客様に、より快適に、より楽しくご利用いただくために、サービスエリア・パーキングエリアの施設整備、混雑対策等を実施しました。
- 受託事業については、地方公共団体からの長大橋に関する施工検討業務・発注支援業務、独立行政法人国際協力機構からの橋梁・道路の維持管理研修、国からの生口島道路・大島道路の道路管理業務、接続する他の高速道路会社からの料金収受業務・道路管理業務及び機構からの本四備讃線・本四淡路線（鉄道施設）の維持管理業務等を受託しました。
- 以上の結果、営業収益2億円に対し、営業費用が2億円となり、営業利益が0.02億円となりました。

貸借対照表

(単位：億円)

区 分	平成22年度 中間期末	平成21年度 期 末	増(△)減
資 産	370	383	△ 12
流動資産	170	167	3
固定資産	200	216	△ 15
負 債	237	259	△ 21
流動負債	69	76	△ 7
固定負債	167	182	△ 14
純 資 産	133	124	8
株 主 資 本	133	124	8
資 本 金	40	40	－
資 本 剰 余 金	40	40	－
利 益 剰 余 金	53	44	8
(負債・純資産合計)	370	383	△ 12

資 産 の 状 況

資産の総額は370億円であり、このうち流動資産は170億円、固定資産は200億円となっています。固定資産は、料金収受機械設備等の高速道路事業固定資産、サービスエリア・パーキングエリアの土地及び建物等の関連事業固定資産が主なものとなっています。

負債及び純資産の状況

負債の総額は237億円であり、このうち流動負債は69億円、固定負債は167億円となっています。

純資産の総額は133億円であり、資本金、資本剰余金、利益剰余金の合計となっています。

連結決算の概要

連結対象

次の子会社3社を連結対象としています。

会 社 名	主 要 な 事 業 内 容
ＪＢハイウェイサービス株式会社	休憩所等事業、料金收受管理、交通管理
株式会社ブリッジ・エンジニアリング	点検管理、長大橋維持修繕
ＪＢトールシステム株式会社	料金收受機械保守整備、料金収入・交通量のデータ管理

連結損益計算書

(単位：億円)

区 分	平成22年度 中 間 期	平成21年度 中 間 期	増(△)減	前 年 同期比 (%)	(参考) 通期見込 ※
営 業 収 益	311	297	13	4.6	641
高速道路事業	300	285	14	5.1	609
うち料金収入	286	273	13	4.8	555
関 連 事 業	10	11	△ 0.8	△ 7.0	32
うち休憩所等事業	8	8	△ 0.3	△ 4.1	14
営 業 費 用	289	274	15	5.4	632
高速道路事業	282	266	15	5.8	605
うち道路資産賃借料	186	173	12	7.0	364
関 連 事 業	7	7	△ 0.5	△ 6.7	27
うち休憩所等事業	5	4	0.3	7.3	11
営 業 利 益	21	22	△ 1	△ 4.9	9
高速道路事業	18	18	△ 0.8	△ 4.3	4
関 連 事 業	3	3	△ 0.2	△ 7.9	5
うち休憩所等事業	3	4	△ 0.7	△ 16.8	4
経 常 利 益	22	24	△ 1	△ 5.6	11
特 別 損 失	2	－	2	皆増	2
中 間（当期）純 利 益	9	11	△ 1	△ 16.9	4

※ 通期見込は、当社が現時点において入手可能な情報に基づき作成したものです。したがって、実際の業績は、様々な要因によって異なる場合があります。

高速道路事業と関連事業を合わせた全事業において、営業収益311億円に対し、営業費用289億円となり、営業利益は前年同期を1億円下回る21億円となりました。これに営業外収益と営業外費用を加減した経常利益は22億円となり、特別損失2億円と法人税などを差し引いた中間純利益は前年同期を1億円下回る9億円となりました。

なお、平成22年度の通期では、当期純利益は4億円と見込んでいます。

連結貸借対照表

(単位：億円)

区 分	平成22年度 中間期末	平成21年度 期 末	増(△)減
資 産	426	432	△ 6
流動資産	189	180	9
固定資産	236	252	△ 15
負 債	279	295	△ 16
流動負債	82	84	△ 1
固定負債	196	210	△ 14
純 資 産	147	137	9
株 主 資 本	147	137	9
資 本 金	40	40	－
資 本 剰 余 金	40	40	－
利 益 剰 余 金	67	57	9
(負債・純資産合計)	426	432	△ 6

資 産 の 状 況

資産の総額は426億円であり、このうち流動資産は189億円、固定資産は236億円となっています。

負債及び純資産の状況

負債の総額は279億円であり、このうち流動負債は82億円、固定負債は196億円となっています。

純資産の総額は147億円となっています。